

社会福祉法人天上会 広報誌「ひろば」2019年春号 発行日：2019年5月31日 発行：社会福祉法人天上会 理事長 前田智史 / 表紙写真：活動風景

# ひろば

社会福祉法人天上会 広報誌

2019年 春号



# めるはな卒園式

## 卒園によせて

めぶき園 学童療育うと・はなこ園 園長 大村 恵子

めるはな卒園式はいつも、練習無しのぶつけ本番です。

未就学児部の子どもたちも、当日の朝、ごく簡単な段取りを聞いて式に臨みます。

職員が心を込めて作ったコサージュを胸につけて、親たちの拍手の中を意気揚々と進む子どもたちを見ると胸が熱くなります。

どの子にもどの親にもドラマがありましたから。

学童部卒園式は「経験値」がものを言い、それはもう立派なものです。早い人で二歳から療育を開始し、以来十六年間通園してくれました。五名はこの春から、一般就労、就労移行、作業所、生活介護などの社会人一年生です。めるはなで培った「人を信頼する力・自分を信頼する力」で頑張ってくれると信じています。

学童の卒園式には、大勢の先輩たちが駆けつけてくれました。自分たちがしてもらったように、後輩たちの門出を心から祝ってくれました。先輩たちに「きててくれてありがとう。嬉しかった。」というと一人が「いや、ここは実家だと思っている。実家に帰ってくるとホッとする。次は五



月のカレーパーティに帰ってきてボランティアするからね。」  
と言いました。どきんとしました。

実家とは、なんて素敵な表現でしょう。

これ以上の誉め言葉があるでしょうか。

卒園は別れではないこと、子どもたちにとってめるはながどんな存在であればよいのか、を教わりました。

めぶき園は、十九回目の春を迎えるました。

これからも、在園児と卒園児にとって「実家」のように居心地の良いめるはなでありたいと思います。

## 保護者様からのメッセージ

～保護者代表あいさつより～ 長野 望さん

息子は妊娠7ヶ月のときに病気がわかりました。医師からは重度の障害があり、目が見えるか耳が聞こえるか呼吸ができるか、産まれてこないとどういう状態かわからないと言われました。でも息子は産声をあげて、自分で呼吸して産まられてきました。



はなこに通いだしたのは1歳5か月の頃です。その頃は、あまり身体を動かすこともできず大きな音にびっくりして泣いたり、苦手な感覚遊びや創作のときはやりたくないという表情だったり、はじめての経験で緊張することが多かった様に感じます。毎日の課題や遊びのなかで、息子は少しずつ成長が見られました。最近は自分の好き、きらいを声や表情で知らせ、楽しい時やもう一回やりたいときは大きな声で教えてくれたり、嫌なときは首を大きく振って自分の気持ちを教えてくれるようになりました。過敏だった手の動きも、自分からひっぱったり今まで興味のなかったおもちゃで遊んだり、カーテンやふすまを手で動かして一人で大笑いしたり、そしてなにより身体を動かすことが大好きで、すりばいや寝返りが

上手にできるようになりました。

先日は久しぶりにめぶき園の藤村先生がはなこに遊びにきて、息子はとてもうれしかったようで、藤村先生のところに行きたいのに、なぜか木村先生のところへ行き、何か違うのに気付いた息子は寝返りで藤村先生のところまで行くことができたそうです。

自分の行きたい場所に身体を動かしていくことができるようになりました。



息子の成長に本当に驚いています。きっとはなこ園に通っていなければ、ここまで成長することは出来なかったと思います。そして私自身もはなこの先生にいつも元気をもらい助けてもらいました。息子の病気がわかったとき、障害のある子は絶対に育てられないと思っていましたが、家族や周りの方々のサポートのおかげで息子をここまで育てることができました。気持ちの面でも母親として強くなったと思います。介護という仕事も息子が教えてくれました。人をお世話する楽しさ、命につながる大切な仕事ですがきっと息子の子育てにつながると思っています。

最後にはなこを紹介してくださった江之口さん、相談支援の中村さん、大村先生ありがとうございました。はなこ、めぶき、るうとの先生方本当にありがとうございました。



## 障害者支援施設 新樹樂園

おくひら ゆみ  
**奥平 裕美**

- ①小学校から高校までの11年間バレーボールをしていました。他のスポーツは不得意ですが、バレーだけは得意です！  
②日々感謝

照葉の森  
ながくら こういちろう  
**長倉 幸一郎**

- ①写真、カメラ、オブジェ、ディスプレイ...アート大好き人間  
②命があるうちに、情熱があるうちに、陽が沈まぬうちに

# 平成31年度 新任職員紹介

平成31年度4月より新たに当法人に入職した12名の職員をご紹介します。新しい仲間と共に、より質の高いサービス提供に努めて参ります。

障害者支援施設 新樹樂園  
あんどう みちる  
**安藤 満**

- ①気持ちが表情に出るタイプです。利用者と共に笑顔でいられる時間を増やしていくたらと思います。  
②有言実行

障害者支援施設 新樹樂園  
こもり めぐみ  
**小森 愛**

- ①強いて言うなら、「我慢強い」ところです。  
②特になし  
その時々、心に響く言葉です。

照葉の森  
しんばら えりな  
**新原 絵里奈**

- ①社交的・体力  
②ありがとう

障害者支援施設 新樹樂園  
にし せいや  
**西 星哉**

- ①ドライブ、ゲーム、マンガ、アニメ、カフェ巡りが趣味です。なよなよしているように見えますが、剣道三段です。  
②無理だったのかもしれない。無茶だったのかもしれない。でも、無駄じゃなかった。

障害者支援施設 新樹樂園  
うちむら まなえ  
**内村 愛瑛**

- ①おだやか・笑顔・歌うことが好き  
②ありがとう  
人から学ぶ、経験して学ぶ、失敗して学ぶ、成功して学ぶ

障害者支援施設 新樹樂園  
またの さだよ  
**又野 貞代**

- ①笑顔で頑張ります。  
②感謝

カイロス  
このり ひであき  
**小森 秀昭**

- ①心機一転。  
とにかく明るい小森です。  
②感謝

わたぼうし  
かみわ だ よしこ  
**上和田 良子**

- ①整理整頓。  
掃除は大好き。  
②塵も積もれば山となる。

事務所  
みやざき あいこ  
**宮崎 愛子**

- ①若く見えると言われます。外見はともかく内面はいくつになんでも素直な心をなくさないようにしたいと思います。  
②みんなちがって  
みんないい

事務所  
じゅうの えいじ  
**城野 栄治**

- ①生涯スポーツとしてスポーツ吹矢をやり始めて2年少々になります。  
2020年からしま国体のデモ競技として串良アリーナで行われます。  
②矜持と諦観  
(きょうじとていかん)

利用者の皆さんと共に生きる私たち支援員。  
その一人ひとりが、  
より良いサービスをカタチにできるよう  
さまざまな想いを胸に支援に取り組んでいます。

本部  
—事務員—  
**櫻村 万貴美**



『心に残っている出来事』それは前理事長の突然の死。

年度が変わり、「さあこれから新年度の始まり、引き締めて頑張ろう」と思っていた矢先の訃報でした。

お見舞に行った時には、みんなにお元気でいつもと何一つ変わらない姿でいらっしゃったのにと、信じられませんでした。

事務員という職種であるため、前理事長と話す機会は多かったと思います。

そんな中で、いろいろと気にかけてくださり「元気ねよ?」や「忙しいか?」とか「ばちばちでいいから頑張りなさい。」「たまには息抜きも大切だよ」など、本当に細かく声を掛けて、励ましてくださっていました。

そのおかげで何度もくじけそうになっていましたが、こんな私でも10年ちかく頑張っています。

前理事長がいつも話されていた『まずは笑顔で挨拶を』。これを忘れずにいこうと思います。

障がい福祉

支援 の



私のこの一年は利用者の笑顔に支えられた毎日だった  
ように思います。

毎朝、挨拶をしてくれる利用者、どんな時でも笑顔で迎えてくれる利用者、その場を和ませてくれる利用者。職員不足の中、思っているような支援が出来ず、時間に追われ自分に余裕がない日もありました。

その中で利用者が見せる笑顔に癒されたり、励されました。

その笑顔が続く為にも、利用者に寄り添った支援をしなければならないと、改めて思いました。

最近、小学生になった息子に「お母さんの仕事はご飯を食べさせたり、トイレに連れていったり、お風呂に入れるんだよね。」と言われました。そうではなく、お互い支え合って一緒に生活しているんだという事、利用者から得るものが多い事を伝えたいと思います。

新樹楽園  
—支援員—  
**有山 沙織**



# 現場から



はなのこ園  
—看護師—  
**村吉 久美子**



はなのこ園は重度の障害をもつ子供たちが母親と離れて毎日通園できるところです。子供たちは経口摂取や経管栄養、胃ろう、気管切開などさまざまな状況で日常生活を送っています。毎日の通園のなかでほんの少しでも何かができる目や身体で何かを伝えることがとても貴重なことです。そんな中、今年一番私の心に残った出来事といえば、今年6歳になったKちゃんです。Kちゃんはそれは小さく生まれました。

私の手のひらよりも小さく生まれています。出会った頃のKちゃんは食べる、飲む、注入となかなかうまくいきませんでした。毎日通園する中でKちゃんは少しづつ成長し、はなのこ園でいろいろな経験や関りをもつことでたくさんのができるようになりました。

そんなKちゃん、今年天主会の運動会でたくさんの人の前にでて上手にダンスをする姿がみられました。そしてみんなと一緒に整理運動をすると思いきや今度は表彰台にあがり、はなのこ園の先生の横に立ち、マネをし

5年ぶりに復職したのですが、以前に自分が作ったレシピをはじめ、当時の職員が作ったレシピが今でも引き継がれていた事に感動しました。

レシピそのものは開店当時、ご指導くださった先生が残してくださったものですが、職員の入れ替わりはあったと思うのですがレシピがそのまま受け継がれているからこそ、今も変わらぬ、こかけのパンがあると思います。

天上会を離れている間も「こかけのパンは美味しい」とよく耳にしていました。

基本のレシピがしっかりとしているからこそ、味も守られていくと思っています。それが柱としてあるから他のレシピも生きてくると信じています。

これからも基本をしっかりと守り、時代に合った工夫をしながらパン製造に携わり、天上会の理念もしっかりと守りながら利用者の方々の処遇向上に努めてまいりたいと思います。



て体操をしていました。最後の参加賞授与までしっかりと務めてくれました。はなのこ園ではじめて出会った頃のKちゃんは泣いてばかり、初めての事は怖がり、なにもできなかったKちゃん。運動会で頑張っている小さなKちゃんの姿。私にはとても成長したKちゃんの姿が心に刻まれました。



カイロス  
—生活支援員—  
**小森 秀昭**

# 支える人

第3回



「日々の健康は足元から」

フットケア 美・すけっと 島子 みどり



新樹楽園にフットケアに伺うようになって10年ほど経つと思います。初めは足浴とフットマッサージを職員の皆さんと一緒にさせていただきました。その後もフットケアを日常に取り入れて頂き入所者様の足の状態はみるみる改善していったように思います。

「立つ」「歩く」は、快適に人生を過ごす上で重要な要素だと思います。

自分の足で行きたいところに歩いていける。日常において、歩けるということはあたりまえ過ぎて、一般的にその重要性があまり意識されていないことが多い中で、新樹楽園ではフットケアを日常に取り入れておられるところが素晴らしいと思っています。

楽園に個人的にフットケアに伺うようになってからは、毎月ケアを受けてくださる入所者様とお会いして、最初は足を触られることに抵抗があり、なかなかケアを進めることができない時もありましたが、ケアを重ねていくうちに、触れる部分が増えてきて、今ではコミュニケーションがスムーズにできるようになりました。

入所者様に次はいつですか?と言われると嬉しい気持ちでいっぱいになります。

足指と足爪を大切にすることは、健康な生活を送るということに繋がります。

ご家族の足、爪を観たことがありますか?

爪の切り方により足に影響を及ぼすことがあります。足を清潔にし、正しく爪を切ることは、健康の第一歩です。立つ、座る、歩く時の姿勢を保つためには、爪が大きな役割を果たしています。

まずはご自身の足、爪を観る事から始めてみませんか?爪切りは家族の心を結ぶ時間となります。きっとそこには笑顔が生まれます。毎日の生活を快適に過ごすためには、フットケアはとても大切なことです。

これからも、皆様の足元の健康を願いながらフットケアに取り組んでいきたいと思います。

施術前

平成30年11月15日



施術後

平成31年3月22日



## 法人研修 意思決定支援研修

法人研修委員 末吉 紘也

4月19日、天上会本部ふれあいホールにて、法人研修委員会主催の「意思決定支援研修」を実施いたしました。「意思決定支援」は、知的障がいのある人たちが法的能力を行使するためにとても大切な支援で、天上会の各事業所においても、「意思決定支援」がどんな働きかけのことなのか、まずはイメージできるようにということで、薩摩川内市の方で看護師・認知症介護指導者としてご活躍されているオフィス藤田研修事業部の古城順子先生を講師としてお招きいたしました。

研修では、意思決定の構成要素や原則について、実際の事例やグループワークをとおして、理解で

きるような内容でした。「意思決定支援」で大事なことは、障がいのある本人が、安心して自信を持ち、自由に意思表示できるよう支援すること、そのような関係を構築すること、本人の意思確認がどうしても困難な場合、日常生活場面の表情や感情、行動の記録やこれまでの生活史をとおして支援者が本人の意思を推定することが重要です。

今回の研修で学ばせて頂いたことを、各事業所の現場の中で活かし、利用者の尊厳や人生の目標について“共に考え支援できる”そんな職員になりたいと思いました。



## カイロスで実施している施設外就労を紹介します

### ジェイズカントリークラブ 鹿屋コース(鹿屋市上高隈町)

各コース、ショット時に出来てしまった穴を砂で埋めていく作業を行っています。

見晴らしの良い自然の中での補修作業は、気持ちが良いので頑張れます。その他に、ゴルフ場周辺の環境整備や売店の掃除等を行っています。



### 南九州きのこセンター(錦江町)

気温の低い作業室でエノキポットにプラ紙を巻いていく作業です。

プラ板を巻いた後、成長した一部のエノキはカイロスみのり工房でのエノキチップス作業等の内職作業となり売り上げに繋がっております。



# 田原耕二さんの傘寿のお祝い



平成31年2月9日に田原耕二さんの傘寿のお祝いがありました。

田原さんは天上会に来られてから牛舎での作業に携わり、約30年経ちました。現在はグループホームで暮らしながら、牛の出産時には牛の様子を確認する為夜や早朝に何度も牛舎へ足を運んだり、仔牛の競り市へも朝早くから同行し牛を引いたりもして下さいました。今年からは次の世代に託してもらいますが、いつまでもお元気で頑張ってもらいたいです。



## 本人コメント

これほど早く年をとるものかと驚きました。昔から身体は強く、健康の秘訣は土日に食堂に食べに行く刺身ではないでしょうか！？（笑）

これから、牛舎も大きくなるので身体を壊さないように頑張っていきます。

## めぶき園では 鹿児島県障害児等療育支援事業 を実施しています。

### ●県障害児等療育支援事業概要

おうちや学校、幼稚園・保育園、療育を行っている事業所などを訪問し、こどもさんや保護者さん、先生方と一緒に、授業や保育・療育などを受けやすくするお手伝いをします。

#### 1. 在宅支援訪問療育等指導事業

理学療法士・作業療法士など専門家と自宅に出向いて、かんたんなリハビリテーション技術やマッサージ法などを直接指導します。

#### 2. 在宅支援外来療育等指導事業

療育を実施する施設で本人・家族に行う療育支援です。

#### 3. 施設支援一般指導事業

通園事業所・保育園・学校等へ専門家と出向いて職員に対して行う療育支援です。

私たちが訪問します



## 編集後記

平成最後に作成した“ひろば”となりました。昭和38年に定員50名の障がい児の入所施設としてスタートした天上会も利用される方々のニーズに伴い、平成に入ってからはグループホームや相談支援事業、児童から就労の場まで新たな事業が拡がりました。平成終盤の29年には新樹学園の移転に伴い『新樹楽園』への名称変更など天上会にとって大きく変化のある「平成」の時代であったかと思います。5月からは新たな時代、「令和」のスタートです。天上会の場ではもちろん、地域の場でも職員も利用される方々も保護者の方も皆それぞれが笑顔でキラキラと輝くことのできる時代になることを願って平成最後の編集後記を締めくくりたいと思います。今後ともご愛顧のほどよろしくお願ひ致します。

（広報委員 本郷）